





俗字大旨抄

俗字に字里あるゆほよ

古々俗字つしはのしき字里ありて古事記日本紀万葉集
 など賦もどめて大々天曆此比あつたかみ書ええ
 たる志皆一格をみづれたる事付くはいさるゆほよ
 て志うはぞといひ侍るに古々伊為於乎衣惠などの音字と
 あへねのぼりよふち侍りしそくちちさく詞をさしき
 字音より記しおるそのふれは乱きたる事なうりしそく付
 りけはそく後の世れめく伊為於乎衣惠などの音付唱へよ
 ちそくもめんもわに侍りしそく古々人たのしむる文字
 けよのそくそくをさしき事付くはいさるゆほよのそく
 りよめあはれはそく一しそくと書すべし日本紀影宗紀顯宗の



法兄弟此法事或注文よきなり。其二曰億計王其三日弘計王
と見え又古事記開化の條に法姉妹此皇女の法名に姉を意祁
都此賣と申し弟或表祁都此賣と申せし事有りこれ其の法
名とそ於と乎とよりて申せし事有りけし。

億ハ於カ反マシ力反マシ音オクナリ或於の海字に用ヒ
弘ハ胡肱反マシ吳音ヲウナリ也乎此海字に用ヒるその
子傳り此二帝此法名を古事記よき意富祁命表祁命と傳
里セリ於ハ央居反マシ衣虛反マシ音淤シ乎は居呉反マシ
洪孤反マシ音胡シ胡字ハ韻鏡匣母に属スル字ナリトすべ
匣母此字カキケ此音ナリトウキウエナリト多し其の
右に乎或ナの海字には用ヒ付るナリ又於と乎と其同
音トスル所ニ於と乎と見ル於乎此音ト別ハ多し事ナリト
正所事ナリに依テ反の字ハ別ハ多し事ナリト云々

央居反 倚平反

オ
一
小
大

反歎辭と云ふ於の乎と同音ナリハ此倚乎反歎辭ナリ
と付る所ニ於ハオレ海字に用ハレハ央居反ナリト云レハ
別の音ナリト云レハ又意祁都此賣の意ハ意思此意字ト云
レ億字の省文ナリ或古の書に文字此畫を省テ書き付ル
一多し健を達ト云キ伎を支ト云キ云々の類ニ

質朴ナリ古の世ナリトモ法兄弟或一法名ト唱ヘ申セリ事
ハ付るべし然レ於乎の音ト云レハ事ナリト云レハ億
と弘ト云レハ義ト云レハ於乎の音ト云レハ億ハ於保の略ナリ
大此義ハ弘ハ小此義ナリ

此法名此義ト詳ニ知ラズト付るナレト強テ試シ付ル
ガ億計弘計此計ハ和計の略ナリト大別小別ト云レハ義ト云
レハ領地ト云レハ賜ヘシト云レハ名ト云レハ氏ト云レハ

法ハラカラ兄弟ハラカラ此法事ハラカラ法ハラカラ文ハラカラ又ハラカラ其ハラカラ二曰ハラカラ億ハラカラ計ハラカラ王ハラカラ其ハラカラ三曰ハラカラ弘ハラカラ計ハラカラ王ハラカラ
と見え、又古事記開化の條、法ハラカラ姉妹ハラカラ此皇女の法名に、姉ハラカラを意ハラカラ祈ハラカラ
都ハラカラ比賣ハラカラと申し、弟ハラカラ表ハラカラ祈ハラカラ都ハラカラ比賣ハラカラと申せし事、法ハラカラは、これハラカラの法
名ハラカラと、於ハラカラ乎ハラカラと、申せし事、法ハラカラは、
億ハラカラ、於ハラカラ力ハラカラ反ハラカラ、し力ハラカラ反ハラカラ、音ハラカラオクハラカラなる、法ハラカラ、於ハラカラの法ハラカラ字ハラカラに用ハラカラひ、
弘ハラカラ、胡ハラカラ眩ハラカラ反ハラカラ、吳ハラカラ音ハラカラヲウハラカラなる、乎ハラカラ、此ハラカラ法ハラカラ字ハラカラに用ハラカラひ、
よ、此ハラカラ二帝ハラカラ此法名を、古事記ハラカラよ、意ハラカラ富ハラカラ祈ハラカラ命ハラカラ表ハラカラ祈ハラカラ命ハラカラと、
見ハラカラ、於ハラカラハ、央ハラカラ居ハラカラ反ハラカラ、衣ハラカラ虛ハラカラ反ハラカラ、音ハラカラホハラカラ、乎ハラカラは、戸ハラカラ呂ハラカラ反ハラカラ、
洪ハラカラ孤ハラカラ反ハラカラ、音ハラカラ胡ハラカラ、胡ハラカラ字ハラカラハ、韻ハラカラ鏡ハラカラ匣ハラカラ母ハラカラハ、屬ハラカラする、字ハラカラより、
匣ハラカラ母ハラカラハ、字ハラカラカキハラカラケハラカラ此音ハラカラなる、
右ハラカラに乎ハラカラ、此ハラカラの法ハラカラ字ハラカラは、可ハラカラし、
音ハラカラと、於ハラカラ乎ハラカラ、
よ、人ハラカラ乃ハラカラ、
玉ハラカラ篇ハラカラ、
於ハラカラ央ハラカラ間ハラカラ、
又ハラカラ倚ハラカラ乎ハラカラ、

反ハラカラ歎ハラカラ辭ハラカラと、
と、
別ハラカラの音ハラカラ、
で、
一ハラカラ、
質ハラカラ朴ハラカラ、
ハ、
と、
大ハラカラ此ハラカラ義ハラカラ、
此ハラカラ法ハラカラ名ハラカラ此ハラカラ義ハラカラ、
大ハラカラ別ハラカラ小ハラカラ別ハラカラ、
ハ、
ハ、

オ
カ
小

反ハラカラ歎ハラカラ辭ハラカラと、
と、
別ハラカラの音ハラカラ、
で、
一ハラカラ、
質ハラカラ朴ハラカラ、
ハ、
と、
大ハラカラ此ハラカラ義ハラカラ、
此ハラカラ法ハラカラ名ハラカラ此ハラカラ義ハラカラ、
大ハラカラ別ハラカラ小ハラカラ別ハラカラ、
ハ、
ハ、

礼を生類に付らん。の本居言もハ大司小司の義なりん。
といひ付る事、又意祁都表祁都の祁都ハ地名とすやと宣
長いに付る事、これハ同ト地名を大と小とすて、
瀬小泊瀬大岐蘇小岐蘇など、その事此に付る事、
大を略して、於に付る事、例多き中、新撰字鏡
に阿婆於波 和名抄に祖母於波など付り、於波ハ大母の義、
又乎此小の義なる事、常の事、
母乎波 和名抄に伯叔母乎波、
を大母といふに對して、
伯叔母をばといひ付る事、
此書ハはくち、
大を略して、於に付る事、例多き中、新撰字鏡
に阿婆於波 和名抄に祖母於波など付り、於波ハ大母の義、
又乎此小の義なる事、常の事、
母乎波 和名抄に伯叔母乎波、
を大母といふに對して、
伯叔母をばといひ付る事、
此書ハはくち、

へくちを付る事、
阿父と於地、伯父と乎地、
別の義ハ詞あるに、
假字あるべきを乎とす、
に乱れたる事、
恵此ありある事、
礼たる事、
沖ハ和字正濫抄、
を舉る事、
正濫抄並ニ要略古言様など、
る事、
て古書此假字に用い、

へくちを付る事、
阿父と於地、伯父と乎地、
別の義ハ詞あるに、
假字あるべきを乎とす、
に乱れたる事、
恵此ありある事、
礼たる事、
沖ハ和字正濫抄、
を舉る事、
正濫抄並ニ要略古言様など、
る事、
て古書此假字に用い、

真字の依り

此字書につき考ふる時、よ、叶ひ傳り、吾み、ま、わ、古れ人の漢文字を使ひ傳る事、全く唐より承たるものなるは、其の音義皆唐人の例より傳り、其の事、傳りて、明などの字、出る字書に、唐人の例、また、あ、わ、に、合、は、ざる事、は、伝ふ、こ、
此字音の例、よ、な、る、に、^本居、書、ま、の、字、を、傳、る、格、も、載、て、
傳、る、事、も、近、世、韻、鏡、の、學、校、も、つ、と、お、り、人、の、書、も、よ、
こ、い、れ、れ、異、説、も、傳、れ、ど、わ、が、ま、つ、と、古、書、に、例、を、考、へ、
ざる類、の、も、多、う、傳、り、

古書につきて傳るの例を考ふるに、

古れ傳るの例を考ふるに、^真字、ま、り、書、た、る、書、に、よ、り、考、へ、傳、
る、事、な、り、い、う、と、い、ひ、傳、り、天、曆、以、上、の、傳、り、は、
ま、り、記、せ、る、書、も、平、傳、字、ま、り、書、ら、る、書、に、後、の、ま、り、
も、ま、り、に、ま、り、傳、り、も、あ、り、傳、り、の、證、も、取、ら、る、

行阿の依り

如

物

後の書、^行阿、の、傳、り、は、い、ふ、の、た、り、は、
て、より、ま、り、傳、り、た、る、書、を、皆、い、阿、の、傳、り、
の、の、り、は、改、め、傳、り、は、皆、古、ま、り、し、き、傳、り、
ま、り、貫、之、の、筆、な、り、と、あ、り、わ、ん、と、り、ま、り、
れ、秋、部、の、下、一、巻、傳、り、を、よ、り、あ、り、
い、ま、り、九、貫、の、筆、な、り、と、あ、り、
の、集、の、自、筆、に、不、の、模、本、又、永、兼、五、年、麗、京、殿、女、法、の、繪、合、記、の、
模、本、れ、の、筆、な、り、と、あ、り、
も、ま、り、の、人、れ、筆、な、り、と、あ、り、
ま、り、の、平、傳、字、に、ま、り、傳、り、
ま、り、の、書、に、ま、り、傳、り、
ま、り、の、書、に、ま、り、傳、り、

真字に依る

此字書につき考ふる時、よく叶ひ傳り、吾み、まゝ古世人の漢文字を使ひ傳る事、全く唐より承たるそれ、傳るハ音義皆唐人の例より事傳るハ明などの字、出る字書ハ唐人の例また、わびて、おがむに合はざる事、傳る事、此字音の傳る、本居宣長の字書、傳る字格、載て傳る、近世韻鏡の學、載る、と、邦人の書、と、いられ、異説、と、傳れど、わが、と、古書、此例を考へざる類の、多う、傳る、

古書につき、傳る字の例を考ふる、ゆゑ、

古世傳るの例を考ふる、に、真字、と、書たる書によりて考へ傳る事、なり、といふ、と、いひ、傳る、に、元曆以上の傳る、此、所、より、此、記、せる書、と、平傳、字、と、書る書、ハ、後の、此、人、より、る、ま、に、か、き、れ、本、なる、もの、は、傳る、傳る、の、證、と、取、ら、う、ある、

行阿が道下
傳る字に依る

後の、此、行阿の傳る字、は、いふ、の、た、い、れ、る、は、傳る、より、ま、な、傳る、字、に、か、き、たる書、を、皆、い、阿、が、傳る、字、つ、の、の、傳る、は、改め、傳る、は、皆、古、ま、り、し、き、傳る、め、さ、り、貫、之、此、筆、なり、と、ある、わ、ん、と、れ、き、家、に、古、今、集、此、秋、部の、下、一、卷、傳る、を、よ、り、ある、と、生、の、本、と、見、傳る、に、ま、さ、り、九、貫、の、筆、あり、と、ま、さ、め、が、う、傳る、ま、れ、と、い、ふ、る、き、ま、書、る、本、と、見、え、傳る、に、傳る、字、古、に、い、れ、つ、あ、又、重、之、集、の、自、筆、此、不、の、模、本、又、永、兼、五、年、麗、東、辰、女、清、の、繪、合、記、の、模、本、れ、と、傳る、に、れ、そ、筆、者、た、り、に、ま、さ、り、れ、傳る、ね、と、皆、い、ふ、の、人、れ、筆、と、ま、ん、え、傳る、に、傳る、字、古、に、い、れ、つ、り、か、る、れ、の、そ、れ、傳る、に、ま、さ、り、平、傳、字、に、ま、さ、り、傳る、に、傳る、と、傳る、に、傳る、と、い、ふ、

とて、生、の、ま、書、る、に、より、考、ふ、と、い、ひ、傳る、と、栗、ハ、古、事、記

字此例よたゞる事なるれば、礼をも偽字の徳として、偽字
成言の何事なり、

後此世の言は、けいひうけの詞叶ハ、さるが多少、四位ハ志為
ル偽字にて、惟ハ志比の偽字ル、と四位を惟よし、木居
去古為、此偽字とて、志ハ古比の偽字なるを、木居を志とい
ひよせ、折ハ乎里の偽字とて、織ハ於里の偽字なるを、紅糸
を錦よし、なりて、枝成折を織よし、よせ、侍る字れど、其
皆古乃例よ、あ、は、又夕と訓にいひ、うをたる言なども、侍る
と、ハ、夕と言ハ、通リて、い、べき、辨よ、い、侍るを、わ、い、う、の
言よ、は、かり、め、よ、い、い、う、々、る、詞、を、え、偽、字、此、例、よ、叶、は、る
も、侍る、と、る、ま、

又、一、く、古、書、の、古、書、に、證、を、な、す、れ、ど、傍、此、例、を、と、り、て、偽、字、を
言、ひ、る、事、も、何、れ、も、前、日、此、事、成、乎、止、津、比、と、い、ふ、事、也、万

衆に乎登都日とあり、此、證、は、き、ら、の、よ、は、れ、ど、前、年、の、事、を
乎止志といふ、い、き、漢、古、書、に、見、え、侍、る、ね、ど、乎、登、都、日
ハ乎登と、全く同語と、見、ら、れ、ハ、此、礼、を、も、乎、レ、偽、字、と、言、め
侍る、乎、止、津、比、と、乎、知、津、日、津助乎止志と、乎、知、年、に、過、さ、あ、た
る、方、を、と、り、て、乎、知、と、い、ふ、事、ハ、遠、近、を、乎、知、古、知、な、ど、い、ふ、乎、知、ま、り、止
と、知、と、ハ、通、ふ、詞、な、ら、ば、此、事、乎、知、ハ、漢、語、の、本
ハ、彼、物、と、ま、す、物、ハ、物、と、ま、す、な、ら、ば、美、志、呂、久、多、志、呂、久、
ハ、多、志、呂、久、と、い、ふ、詞、ア、り、て、
い、ふ、詞、は、ま、る、く、お、の、つ、ま、を、き、を、あ、ら、か、し、
美、志、呂、久、と、い、ふ、事、も、美、志、呂、久、又、物、語、な、ら、ば、美、志、呂、久、多、志、呂、久、と、い、ふ、詞、ハ、
ど、い、ふ、詞、は、な、ら、ば、美、志、呂、久、と、い、ふ、詞、ハ、
む、志、呂、久、と、い、ふ、詞、ハ、
志、呂、久、と、い、ふ、詞、ハ、志、呂、久、と、い、ふ、詞、ア、り、て、
万、志、と、い、ふ、書、ハ、其、れ、を、例、と、り、て、皆、志、レ、偽、字、と、言、め、侍、る、
凡、志、呂、久、も、勤、く、我、レ、詞、万、志、呂、久、ハ、目、レ、勤、く、事、を、い、ひ、美、志、
呂、久、も、身、レ、勤、く、事、成、し、美、志、呂、久、ハ、多、ハ、被、説、
呂、久、ハ、物、の、勤、物、の、勤、
く、事、を、い、ふ、清、水、漢、字、云、多、志、呂、久、ハ、多、志、呂、久、
勤、く、事、を、い、ひ、美、志、呂、久、美、志、呂、久、多、志、呂、久、と、い、ふ、詞、ハ、
六

もしあつねと程は、わが志呂久とよふ事皆同語なれば、終ふ事
あるに似たり。此類の事あるは、ゆるぎなく、同義と例とを考へ
合する時、必ず偽字の如く知られ侍り。

又古書に「しき」誤も「しん」の傍の例とどき、詞もなると
だが、「しき」詞ゆゑは、その詞の義を考へ替へて、偽字とす
る事を侍り、よつば澤瀉と於毛多加といふ事、古書に「偽字」は
んを侍り、ねば、たぢん、の字ある、ふ言めが、この「ゆるぎ」を、賀
茂生、潤の考へ、枕字子に、わとぶ、れ事といひて、名のき、
心、あがり、志、んとおもふよとある、誤、れ、面、高、き、言、ひ、し、
た、そのとみゆ、れ、面、の、義、と、わ、わ、の、偽、字、と、言、ひ、
る、又、檳榔と日本紀の古訓、アヂ、サと侍り、これど、生、字、の、訓、注
あけ、ま、い、ら、り、な、り、此、詞、和、を、濁、り、唱、な、れ、る、は、治、ら、自
の、目、つ、ら、が、か、り、と、谷、川、士、清、の、考、へ、檳榔の味ある、その、た、れ

然、味、勝、れ、我、な、ん、と、い、は、知、の、偽、字、と、言、ひ、
き、せ、く、近、来、よ、い、う、や、う、な、れ、和、名、抄、よ、引、ら、深、に、輔、仁、が、和、名、本
草、とい、ふ、書、せ、に、出、る、誤、え、侍、り、此、二、人、の、考、よ、く、あ、る、侍
り、奴、す、れ、は、ち、本草、に、澤瀉、於、毛、檳榔、阿、知、と、あり、此、本草、に、
これ、二、人、の、い、は、り、て、い、ひ、侍、り、に、なん、此、二、つ、を、か、く、し、し、誤、い、
侍、り、つ、れ、に、論、を、き、事、に、侍、れ、ど、然、し、し、證、を、得、ぬ、詞、と、そ
に、義、或、考、へ、替、へ、て、偽、字、を、言、ひ、ま、す、こ、と、ど、ぞ、そ、ら、れ、
侍、る、た、ら、ぬ、

又古書に證を、れ、く、その詞の義を替へ、
が、よ、ま、詞、を、た、ま、し、侍、り、や、は、い、う、も、ま、し、ま、
し、し、證、を、得、む、を、た、姑、く、何、が、偽、字、米、あ、る、は、ま、
れ、き、な、れ、る、に、誤、り、を、き、て、侍、り、ぬ、べ、し、
いと、可、れ、な、事、を、侍、ら、ぬ、

花山一條の清時などより上つた家の家記ごとの中に、いふまゝ
きたりしは詞も、仮字も、誤りも、多し、其の事、たゞく、信ずれば
と、僕ハ、この家記の類、其書を、多し、其の事、たゞく、信ずれば、
し、う、い、ふ、と、家記ごとの、信ずれば、い、ふ、ま、ま、
を、つ、け、付、け、き、事、な、ら、ん、

五十音によりて、仮字の例を考ふるなり。

五十音といふその、字、如、く、悉、量、其、學、子、亦、と、より、出、來、つ、る、も、其
よ、け、り、て、其、用、に、し、る、事、と、妙、た、り、し、の、よ、け、り、と、し、を、し、て、わ、が
國、乃、詞、誤、り、の、文、字、の、音、を、も、し、り、ぬ、り、む、べ、き、事、多、く、信、り、
と、古、書、に、假、字、の、例、誤、り、五十音を、考、へ、信、り、に、阿、伊、宇
衣、於、の、行、り、通、へ、る、詞、も、息、を、於、伎、と、も、伊、伎、と、も、地、名、乃
愛、宕、と、於、多、岐、と、も、阿、大、吉、と、も、伎と古と、加伎久計
古の行れ通音 榎、津、と、衣、奈、津、と
も、伊、奈、津、と、も、信、り、也、伊、由、衣、與、此、行、り、通、へ、る、詞、も、老、と、於、以

と、も、於、由、と、も、於、與、と、も、老と於と、い、る、事、ハ、全、集、解、ノ
老、繁、此、事、を、於、与、加、介、と、り 萌、と、毛、衣、と、も、毛
由、と、も、毛、伊、と、も、萌と毛伊と、い、る、事、ハ、方
柴、に、孫、枝、毛、伊、と、あり 國、此、名、の、壹、岐、と、伊、伎、と、も、由、伎
と、も、地、名、の、岩、市、と、阿、由、知、と、も、阿、伊、知、と、も、信、り、和、為、宇、惠、乎、此、行
り、通、へ、る、詞、も、撓、を、多、和、と、も、止、乎、と、も、多と止と、多、知、豆、婦、女、を、
天、止、れ、行、の、通、音、ハ 多、和、也、米、と、も、多、乎、也、米、と、も、戰、粟、と、和、奈、二、久、と、も、乎、乃、二、久、と
も、奈と乃と、ハ、奈、仁、奴、林
ハ、此、行、の、通、音、ナリ 聲、と、古、惠、と、も、古、和、と、も、こ、わ、づ、い、こ、わ、い、ん、居、を、
ハ、此、行、の、通、音、ナリ 乎、里、と、も、為、と、も、為、ハ、乎、里
ハ、反、ナリ 白、亦、と、も、平、計、良、と、も、宇、計、良、と、も、誘、と、乎
古、豆、留、と、も、和、可、豆、留、と、も、信、り、か、る、類、類、あ、り、信、り、な、ら、ん、と
古、語、も、い、ふ、ま、ま、と、も、五十音の通音、亦、多、し、又、波、比、不、閉
保、の、行、り、通、へ、る、詞、も、添、を、曾、布、と、も、曾、比、と、も、曾、閉、と、も、
曾、波、留、と、も、思、誤、り、於、毛、布、と、も、於、毛、比、と、も、於、毛、波、留、と、も、向、誤、り
止、布、と、も、止、比、と、も、止、閉、と、も、止、波、留、と、も、代、を、可、波、留、と、も、可、閉、氏
と、も、可、布、と、も、い、ふ、ま、ま、と、も、信、り、な、ら、ん、此、波、比、不、閉、保、の、行、り、通、へ、る、

詞と誤りて也伊由衣與此行も混ずる事有り添と曾由といひ、教哉乎志由などいひ侍る類皆ひがそよぞ侍りける又也伊由衣與の行もさういふ詞侍り榮を左可衣とも在可由とも嘶と伊波安衣とも伊波安由とも覺と於保衣とも於保由とも見哉美衣とも美由ともいふ類侍り、あれをいふ誤りて、榮を左可布といひ、嘶を伊波布といふれ、さういふきひつことよるん、保字づつといふづれも、ゆきたるは、侍れど堀河院百首、まゝいふ百番歌合れ、あかど、嘶を伊波安衣伊波安由といふつひたるは、類詞を誤るざあり、そのこせも、哉近き、あ、あ、あ、さ、う、よ、あ、が、代、約、い、む、よ、詳、れ、ど、よ、あ、る、あ、ま、く、侍、り、い、い、せ、う、さ、う、る、あ、が、代、約、の、い、む、さ、た、る、あ、う、た、ど、い、さ、で、い、詞、を、侍、ま、し、ぬ、が、る、類、い、保、字、づ、つ、い、む、ら、れ、ま、は、侍、り、ぬ、詞、を、侍、り、な、る、ま、る、ま、る、い、あ、め、の、め、あ、り、た、る、その、い、ひ、の、類、な、れ、ば、

うれそとを考へて、保字哉、あ、つ、け、は、か、つ、へ、き、事、よ、を、侍、り、け、る、又和為、宇惠乎、れ、行、ま、る、ま、る、い、詞、を、い、後、の、せ、れ、人、多、く、誤、り、侍、る、事、に、殖、も、宇惠、宇、宇、和、流、とい、詞、な、る、を、宇、閉、宇、由、と、い、い、居、い、須、惠、須、宇、須、和、流、とい、詞、な、る、哉、須、閉、須、由、な、ど、い、い、類、皆、ひ、さ、う、い、侍、り、閉、い、波、此、不、閉、保、れ、行、由、也、伊、由、衣、と、の、行、な、る、哉、和、為、宇、惠、乎、の、行、と、三、行、を、混、ず、る、事、い、い、て、侍、る、い、ま、ら、も、く、五、十、音、の、通、音、ま、る、う、い、く、詞、と、あ、い、ぬ、め、た、に、混、り、用、ひ、た、る、事、也、古、書、よ、い、は、る、そ、侍、り、ぬ、あ、ん、

世に用ふる保字づついふ二つは法あり

保字づついひの法といふ事、あ、む、と、な、き、あ、う、り、に、い、は、る、や、く、より、家、に、侍、り、ぬ、い、は、る、法、あり、て、い、ま、さ、な、あ、る、事、と、や、う、け、り、侍、れ、ど、う、れ、は、下、さ、ま、の、人、れ、う、か、ひ、ち、り、侍、り、ぬ、事、あ、れ、ば、い、そ、あ、と、く、い、侍、り、ぬ、と、い、は、る、者、に、い、は、る、用、ふる、法、も、古、れ、法、と、今、

此法との二つねん傳りける言ふに此百年あまりにむろ羅波
の沙門契沖といひ傳るる言はれりて考へて考へて考へて考へて
西の記法あるをとりて、其例を定め傳るる言ふに、又々といふ
世に、あんなどか角い事なる法よて、それハ行阿が傳字は
う世といひ傳るる言ふに、此行阿が傳字つひとて、昔一巻傳るる
るれ、み京極の美門の美れ、拾遺愚草の清書と、大炊助親行
はあはれ、くく、海ひく、海時、親り、於乎、衣惠、遍伊、為、法、など
れ、唱へ、傳るる言ふに、くく、て、誤や、すく、わ、ま、く、く、ま、
志、く、て、彼、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
め、たま、ひ、て、愚、字、成、り、れ、定、め、ら、ま、に、か、せ、あ、り、と、
が、孫、を、り、く、れ、に、親、り、が、考、へ、お、く、る、そ、の、く、く、く、
さ、く、に、書、ひ、ら、め、傳、り、ぬ、と、あ、ん、た、れ、ハ、金、く、親、り、が、考、へ、定、め、
た、る、事、ハ、ハ、傳、信、と、美、門、の、美、れ、よ、く、と、く、く、く、く、く、く、
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

行阿の法

は、く、事、な、れ、ば、と、美、つ、の、美、れ、傳、字、つ、ひ、と、そ、の、言、は、い、ひ、
な、り、今、行、阿、が、志、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
字、ハ、四、部、種、字、な、ど、い、ハ、事、れ、あ、る、に、な、ら、ず、く、く、く、
の、と、見、え、て、桶、く、く、く、桶、とい、く、時、ハ、於、の、傳、字、ハ、小、桶、とい、
字、の、傳、字、を、重、を、り、と、い、く、時、ハ、字、の、傳、字、ハ、お、そ、み、と、い、
れ、傳、字、な、ど、く、唱、へ、よ、う、り、て、お、く、ん、と、な、ら、ず、く、く、
な、る、よ、り、お、あ、り、て、は、い、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
又、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
よ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
あ、い、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
あ、い、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
は、い、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
て、さ、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
と、仙、源、抄

の跋よりいへば、志すして、倭字をば、いひ、いふ、も、ふ、ま、に、虫、を、
それなりといふ、それなりといふ、いひ、いふ、なり、なる、神、を、古の倭字の
定りある事より、わきまをかり、一、有、ふ、思、え、侍、れ、と、四、存、に、よ、る、
事、と、破、ら、れ、り、い、ふ、ふ、き、う、も、侍、ら、せ、ら、ん、と、い、ふ、い、と、行、何、が
倭字に、い、い、といふ、その、も、す、で、い、く、百、と、せ、ら、せ、つ、ひ、た、れ
る、わ、さ、た、れ、を、今、に、あ、り、て、一、の、法、よ、こ、を、侍、た、れ、が、れ、ば、
其の、方、人、な、ど、の、を、師、侍、れ、説、よ、そ、む、つ、む、事、と、そ、り、又、ハ、古
と、か、つ、み、て、印、き、筋、よ、説、り、ん、の、ん、も、な、く、て、い、は、ら、な、く、よ、み
い、で、ん、を、を、か、り、う、ち、に、い、の、よ、ま、は、ら、ん、汁、れ、を、あ、と、な、ら、ん、い、
れ、此、法、よ、う、り、て、あ、い、ん、も、さ、そ、侍、り、ぬ、べ、い、と、古の、詞の、本、を、考、へ、て、
い、う、い、の、書、を、よ、ま、ん、人、の、あ、ら、び、古の、例、ある、倭字、を、よ、く、知、る、
屋、き、事、に、ぞ、侍、り、け、る、倭字、を、誤、る、時、ハ、詞の、と、皆、異、り、な、る、
もの、よ、て、侍、れ、ば、倭字、に、う、ら、う、て、ハ、詞、を、め、ら、む、事、か、り、

詞の義を、い、い、で、古の、書、を、誤、り、侍、ら、せ、き、今、の、も、め、
と、一、つ、二、つ、い、い、侍、ら、ん、乎、志、ハ、愛、也、食、也、於、志、ハ、忍、也、押、也、乎、伎
ハ、招、也、菽、也、於、伎、ハ、息、之、起、也、宇、閉、ハ、上、也、登、也、宇、惠、ハ、殖、也、饑、也、波
閉、ハ、延、也、蠅、也、波、衣、ハ、生、之、艷、也、か、ら、い、い、教、へ、も、ほ、く、ご、う、い、れ
と、ご、い、い、と、乱、し、て、ら、ら、ん、い、い、で、う、詞の、義、を、誤、り、侍、ら、ば、ら、ん、倭
字、ハ、例、を、考、へ、印、て、よ、く、習、熟、し、う、ら、に、あ、ら、ぶ、れ、ば、古、書、を、よ、む
い、思、ひ、ま、ど、ハ、事、多、く、侍、り、か、れ、ば、書、よ、れ、ぞ、こ、て、ハ、後、の、ご、ご、り、なる
倭字、と、必、持、て、き、り、り、よ、ぞ、侍、ら、ぬ、字、向、の、道、ハ、公、な、る、その、よ、て、
私、の、こ、れ、に、は、い、い、よ、き、も、れ、い、侍、ら、ね、ば、ご、い、ひ、う、れ、よ、き、人、の
定、め、あ、れ、る、事、な、り、と、誤、ま、す、ら、ば、既、め、侍、り、は、べ、い、又、ち、よ、き
其、よ、思、お、れ、ら、れ、る、人、の、い、い、で、る、事、こ、と、も、い、わ、り、い、い、ら、ん
事、ハ、す、て、侍、ら、ば、ご、く、や、あ、ら、ぶ、ら、に、わ、が、好、む、こ、よ、引、れ、て、誤、や、
志、り、て、も、終、と、す、ら、ん、と、誤、ら、た、ら、い、い、人、を、侍、ら、る、は、う、そ、侍、ら、わ、ざ

しや作らばし

古れ偽字づいを考いで、其權少僧初成後より下まねり
古れ偽字づい、の事ハ、契沖より其下、序り偽れども本を考へ偽れども
を和く文和力は權少僧都成後といへる法沙のそとめて考へいへる
事にも、契沖ハ、説し不づき、る事にも、序りけふ成後が万葉
集ハ、跋し、抑於和字音義、從京極黃門之以降、尋八雲之跡之輩、
高卑伺其趣者歟、仍天下木底守彼式而異之、族一人而無之、依之人二
似背萬葉古今等之字義我者也、僕又專彼式而用、來年久、但特地於
萬葉集、至于書加和字、漢字右、而聊引散愚性之僻案、偏任當集之音
義、所令點之也、是且非自由、且非無所詮、其故者、依當世之音義、書
用其和字、則違萬葉集義理之事有之、所謂當集者、遠近之遠字、
之假名者、登保、登書之、草木枝條之撓者、登乎、登書之、當世遠近之
遠字、和音者、登乎、登書之、然者、用書此和音者、所可令集之字、語相

違也、又書字、惠者、殖也、書字、邊者、止也、此外、此類、雖有之、恐、數、糸、而、注
別紙、とあり、されば、古の偽字、は、い、の、事、に、ん、つ、き、ら、ん、に、以、成、後
こそ、始、ふ、れ、い、め、人、い、の、な、り、し、人、よ、う、な、り、け、ん、り、き、こ、と、い、ふ、れ
偽らば、其、別紙、に、注、す、と、い、う、その、は、が、好、く、守、古、の、偽、字、を、
集、め、か、く、も、れ、よ、偽、る、べ、し、その、を、も、め、を、な、ら、ば、い、と、か、さ、さ
業、な、ら、し、と、い、ふ、名、め、か、く、れ、て、人、の、知、り、偽、ら、ぬ、こ、う、を、し、た、れ、
元、祿、享、保、れ、は、よ、り、此、み、あ、の、字、に、い、う、人、を、考、て、後、の
其、の、誤、を、訂、し、よ、な、ら、し、り、を、ま、り、偽、り、て、は、す、す、ら、い、う、ら
ふ、ら、む、る、人、く、す、き、ぐ、い、を、偽、り、で、來、偽、り、ぬ、さ、る、ハ、そ、ん、く
れ、と、き、い、へ、る、こ、と、を、も、げ、り、も、よ、り、訂、し、て、よ、く、い、ひ、偽、ら
し、と、お、ぼ、え、偽、ら、し、も、た、や、つ、め、れ、ど、ま、ま、と、あ、の、づ、ら、一、の、門、を、こ、
て、ん、と、す、る、と、せ、偽、り、て、い、ふ、や、う、く、ま、も、あ、い、で、る、事、に、い、か、
り、て、り、き、こ、と、を、事、な、き、ま、り、せ、偽、ら、ぬ、ば、ん、を、こ、ら、か、う、て

尺俵ればそのとそざらうより大なるなるあやまりをうらう
車も俵りたりされば人々れいする事どもと管よりとては
くハ俵りざうこそゆるなれどこの俵りづいひの車ハ古
を考へいへる人々れ考へそくもて来ぬるがいとこわりし
てうごく俵りしふおぼえゆるなれどよめらうなうら
古さハときがきもれなうん俵りけるかの新井祐後守れ
船中の系種などいふかる事ハいとよく考へれらうと尺俵
そのよ俵れど古の俵り車よわきまなうらうゆゑよそり
そりいふをてまきまひがことと尺俵りよ船んさうも
すれたりし人々らういうとくてさあさうを俵り
けれまうて世の考へれ人のこころからかんをや
ればば俵りめらうらうしあ俵りし車ハ古を考へ
いふんめらうけきんさういふい俵りはづらや

享和元年八月廿一日

平基海

俵字大意抄畢

此書ハ世にやういふおぼえの俵り車
どもくうらう俵りせとおぼえのあけ
なうらうをいふいふ見えてさ
まをいふをいふいふいふいふいふ
の車ハよく整沖注海より
そて来ぬれ今よその備定りたるが
小考はさういふ考へいふ
なうらうめらういふいふいふ
ぬらういふいふいふいふいふ

文化の四と在といふ事れはつきあふりあれ也の主人

附録一卷

音便假字例

荅鈴木長温書

右嗣刻

織錦齋蔵板

